

研究課題(テーマ)		ダ・ヴィンチ祭 富山県立大学 コロナ禍におけるDX時代を見据えた開催手法の検討	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者			
ダ・ヴィンチ祭 実行委員会	工学部環境・社会基盤工学科	准教授	立花 潤三
研究結果の概要			
<p><目的> COVID-19の感染拡大の影響を踏まえ、2022年度は感染状況を見極めながら実施方法を検討・実施する。実施においては感染防止対策を徹底しながら、DX時代を見据えた新たな企画を募集するとともにその支援を行う。</p> <p><達成目標> 感染対策を徹底したうえでの対面形式での出展、およびオンライン形式での出展を募集しこれを支援する。対面開催については、参加人数やスタッフ数の制約、使用会場の制限などが予想されるため、新規提案を積極的に受け付ける。オンラインコンテンツについては、オンデマンド型で募集を行い、子供達が科学に対して興味・関心を示し積極的に参加するようなコンテンツ作りを富山テレビなどと協力しながら支援する。そしてDX社会における新たな科学リテラシーの在り方を示し地域貢献に寄与することを目的とする。</p> <p><プログラムの成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数は355名(参加者161名、付添者194名)、出展等参加者延べ人数は161名で、昨年より増加した。当日出展協力者数は66名であった。 ・オンライン企画は全20企画の総視聴数は1,333回であった。 ・アンケートを行った結果、「参加した企画は楽しめましたか」については、「楽しかった/興味をもった」と答えた方が92%となり、企画については概ね満足いただけたものと思う。 ・アンケートの「こども科学製作教室企画について感想をご自由に記載ください」という質問に対しては、「楽しかった」のほか、「コロナ前のようにもっと色々な企画に参加したい」とのご意見もあり、規模感も含めて次年度に向けて検討が必要と考える。 ・アンケートの「ダ・ヴィンチ祭特設HP上のオンライン企画はご覧になられましたか」については、「はい」が15%、「いいえ」が85%となった一方、(13)「今後もオンライン企画があれば良いと思いますか?」については「あれば良い」が85%、「なくてもよい」が15%であったことから、オンライン企画への期待の高さが示唆された。 			
今後の展開			
<p>COVID-19に対する規制緩和が進む中、ダヴィンチ祭の柱である対面企画を段階的に拡大させるとともに、コロナ禍という状況下でスタートしたオンラインコンテンツについては、これからのDX時代に向けた新たな地域貢献の形として継続・発展させていき、地域住民への科学リテラシーをより一層深めていきたいと考える。</p>			